

帰国留学生の調査 —外国人留学生受入れの改善を目指す基礎的調査—

松下美知子¹⁾・中崎崇志²⁾・林 康子²⁾・島 弘子¹⁾・櫻田千采¹⁾
(八重澤)

I. 問題と目的

日本の高等教育機関で学ぶ留学生数は1999年 5月現在で 55755人と、統計を取り始めてから最も多くの数値を示している。留学生10万人計画が提言され(1983年)、留学生受入れの整備に着手(1984年)してから現在までの間、来日する留学生を取り巻く状況は大きく変化した。留学生の出身国における教育環境、例えば高等教育機関の整備をはじめとする教育機関の充実、あるいは経済的状况など、様々な外的条件によって、個々人の持つ留学への動機もまた影響を受けてきた。このような海外からの留学生の要求に答えるべく、受入れ側である日本の高等教育機関も複数の受入れコースを準備し対応している。近年の例として、2000年10月からの、日韓の交流プログラムが開始されたことに伴って予備教育を受ける韓国からの留学生が渡日することが既に決まっている、等がそれにあたる。同時に留学生の受入れ体制にはますますその充実が求められるところである。

現在、日本で留学生を送っている留学生に対しては様々な調査が実施され、日本での生活や学習あるいは研究の状況、カルチャーショック、文化的適応・異文化理解などについて明らかにすると共にその改善点について提言している。そのような、いわば現在進行形である留学生を対象とした調査と比べると、帰国した留学生に対する調査は極めて少数である。その理由の一つには、帰国した留学生と連絡を取ることの難しさがあげられよう。とりわけ、出身国に直接帰国するわけではなく、さらなるステップアップを目指して、英語圏経由で帰国の途につく留学生が目立ち始めた最近の傾向にあってはなお一層のことである。従って、帰国した留学生がその後どのような生活を送っているのか、日本に留学したことはどのような影響を与えたのかについて調査することには大いなる必要性を感じながらも同時にその困難性によって実行に移しがたい面があった。

¹⁾ 金沢大学留学生センター

²⁾ 金沢大学大学院社会環境科学研究科

帰国留学生に対する体系的な調査としては岩男・荻原（1988）による帰国留学生の追跡調査、帰国留学生の事例研究があげられる。岩男らの調査対象は1975年の時点で日本の大学に在籍しその後帰国して8～9年が経過したかつての留学生の回答が中心であったが、日本での勉学内容と関連する職業に就いていること、仕事に対する満足度が高いこと、および日本への留学を高く評価し、対日イメージも良好に変化していることを明らかにしている。他にも、東京外国語大学留学生日本語教育センターが、1970年度～1993年度の国費学部留学生を対象にセンターでの教育をはじめ、留学の目的、日本留学の影響、帰国時のカルチャー・ショック、留学の評価、等を分析している（1995）。

帰国留学生を調査することの有効性は、日本留学の全行程を捉えた総合的評価という点にある。現在進行形の留学生であったならば、認知できなかったであろう諸要因の軽重についての判断も可能となろう。このようないわば国外からの、経験に基づく実的な評価は、今後大学が提供する教育・研究をはじめ、専門的な指導や支援を向上させる上で欠くことが出来ないものである。これからの留学生教育を一層充実させるためにも、帰国留学生の調査は不可欠であろう。

本調査では帰国した留学生が、日本で送った留学生活と帰国後の留学経験の影響について明らかにすることを目的とする。とりわけ、帰国後の職業選択や日本語の使用、日本人イメージ、さらにはカルチャー・ショックの様子などについて明らかにする。

II. 手続き

【質問紙の作成】

先行研究を参考に、大学が位置する地域差の考慮、大学への要望などの自由記述を加えて計30項目からなるオリジナルな質問紙を作成した。なお、日本語と英語の併記であり、回答しやすい言語の選択が可能である。質問紙の具体的な内容は、以下の通りである。

- ・回答者の属性（性別、年齢、国籍、母語、職業、等）
- ・日本での留学生活（日本での教育あるいは学校歴、経済的支援、留学の開始と修了・終了、留学目的、留学後の進路、等）
- ・留学経験の影響（日本語、専門の学問、人間関係、自分の人生、等）
- ・日本留学の評価
- ・カルチャー・ショック
- ・日本留学全体に渡る要望（大学、地域、情報、等）、その他

【方法】

本学を卒業または修了した元留学生に対し、無記名による郵送法で回答を求めた。質問紙は1998年12月に発送し、翌1999年2月迄に返信してきたおよそ100名（これは帰国留学生全体の約2割にあたる）について集計していたが、その後数ヵ月遅れて回収したものに加え、最終的には102名の回答について検討した。

Ⅲ. 結果

【人口統計学的分析】

本調査の結果、回答が得られたのは102人であった。これらの回答者の人口学的な内訳は、Figure 1 および Figure 2 に示した。

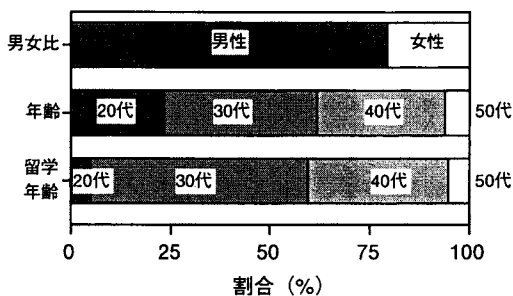


Fig. 1 回答者の性別、年齢と、初めて金沢に留学したときの年齢。

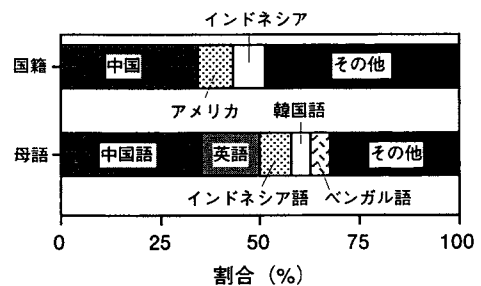


Fig. 2 回答者の国籍と母語。

Figure 1 からわかるように、回答の内訳は、男性が79.4%、女性が20.6%であった。また30代・40代からの回答が多く得られ、この年代が回答者全体の71.2%を占めている。したがって、今回の調査の結果の傾向としては、いわゆる働き盛りの年代の男性の回答が中心になっているといえる。

国籍では、中国が最も多く34.3%、次いでアメリカが8.8%、インドネシア7.8%、韓国・バングラデシュがいずれも4.9%であった。回答者の国籍は、アジア、ヨーロッパ、アメリカなど広範囲にわたり、34カ国に分布していた。また、母語でも中国語が最も多く35.3%となった。

【在日期间との関連】

今回の調査は、合計で30問の質問で構成されていた。その中で、留学したことによって、生活や研究、個人の意志決定などにどのような影響が現れたかに特に注目して分

析した。分析の対象とした質問は、問8：初めて留学したときの年齢、問9：在日期間の合計、問18：使用可能言語（特に日本語の順位）、問25：留学したことの影響（12項目）、問29：帰国後にカルチャー・ショックを感じたかどうか、の5問であった。これらの回答を統計的に分析する際には、各項目ごとに無回答のデータを除いて分析にかけた。

まず、在日期間と留学の影響について分析する。

Figure 3は、問25に用意された12項目に対して、4件法でどのような回答が得られたかの回答の内訳を示したものである。これらの項目の中で、特に“非常に影響がある（4）”という回答が多かったのは“職業選択”および“日本人イメージ”であった。逆に“全く影響がない（1）”という回答が多かったのは“結婚”であった。これらの3項目について、在日期間と影響の大きさの関連を検討した。

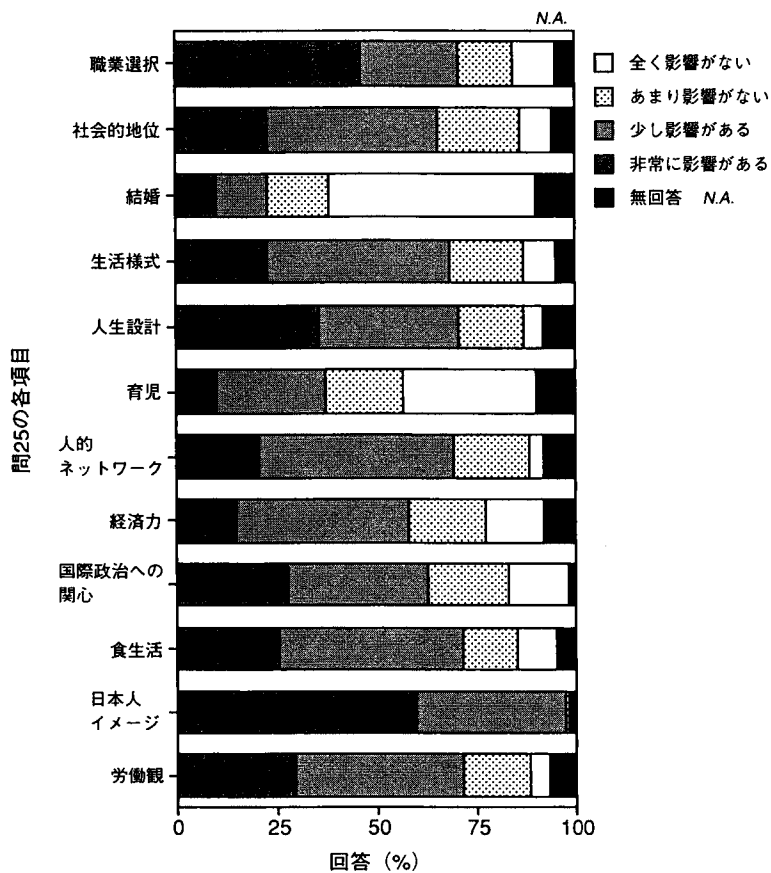


Fig. 3 問25の各項目に対する回答の割合。

Figure 4 は、これらの項目と在日期間との関連を示したものである。在日期間は、すべて月数に換算してある。したがって、図中の“～12”は1年以下、“13～36”は1年1カ月から3年、“37～”は3年1カ月以上在日していたことを示している。

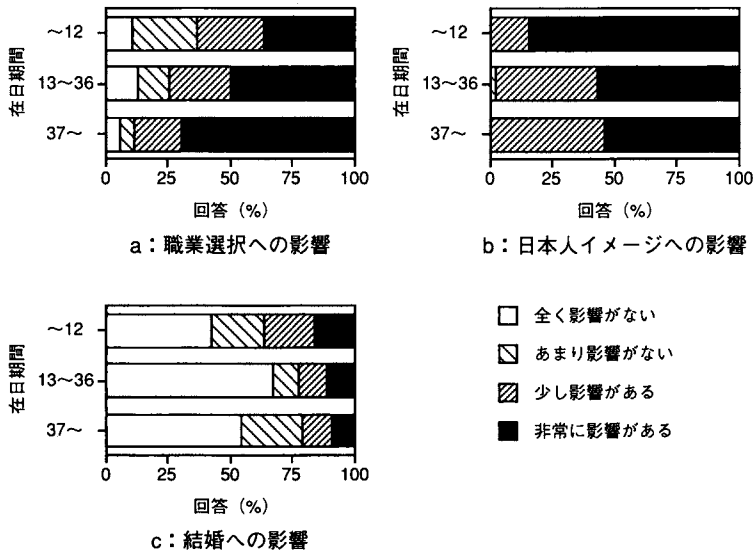


Fig. 4 在日期間と職業選択、日本人イメージ、結婚への影響の関連の程度。

ここに示したデータからは無回答は削除してある。

Figure 4 a には、職業選択と在日期間との関係を示した。ここからわかるように、在日期間が長くなるほど、職業選択に対して影響が強くなることを示している。これは、留学中に学んだ日本語や専門教育がその後の職業に対して影響を与えていることを示唆するものである。特に、留学期間が長い者の多くは大学院を修了するケースが多いため、職業の選択としても留学の影響が現れると考えることができる。

ただし、留学の目的として日本語以外の専門知識を得ることを挙げている留学生が、102名中64名いる。つまり、留学する時点でその後の職業の選択も視野に入れて留学してきている可能性も極めて高いといえる。したがって、専門職に就けるだけの専門知識を習得できた、つまり留学が、所期の目的を達成する方向で職業選択に影響したのか、あるいは留学中に学んだ事柄をもとに職業を選択したのかまでは、判断できない。

回答の1と2、および3と4をまとめ、それぞれ“影響なし”と“影響あり”としてカイ2乗検定をおこなったが、傾向差が現れるにとどまった ($\chi^2 = 5.12, df = 2, p < .10$)。

Figure 4 b には、日本人イメージと在日期間との関係を示した。ほとんどの回答者

が“非常に影響がある”または“少しは影響がある”と回答しており、留学したことによって、日本人に対して抱くイメージが何らかの形で変容していることがわかる。しかしながら、具体的にどのような変容があったかを問う項目が調査の中に用意されていなかったため、どのようなイメージの変容が起こったかは分析できなかった。特徴的なのは、1年以下の回答者の80%近くが“非常に影響があった”としているのに対し、1年を超えて日本に滞在している場合は、そのように強い影響を受けている者が半数程度になっていることである。これは、1年以下の短い留学期間であるほど、日本人に対するイメージの変容が起こりやすい可能性を示すものである。

回答の1と2、および3と4をまとめ、それぞれ“影響なし”と“影響あり”としてカイ2乗検定をおこなったが、在日期間1年以下および3年1カ月以上のグループにおいて影響がないとする回答が得られなかったため、カイ2乗統計量は算出できなかった。

Figure 4 cは、上述の2項目とは異なり、留学によって影響を受けていない結婚に関してまとめたものである。いずれの年代でも、6割から8割近くの留学生が結婚には留学は影響していないと回答している。これは、留学時に既婚であった者も回答者に含まれているため、あるいは留学の目的が多くの場合は日本語の習得や専門知識の習得にあり、結婚の問題とは切り離して考えている留学生が多いためではないかと推測される。

一方で、回答時に既婚であった者のうち配偶者が日本人である者は6名いるが、この6名はこの項目に対して、いずれも“非常に影響がある”もしくは“少し影響がある”と回答している。これは上記の日本人イメージの変容とも関連する問題かもしれない。このように、留学中に結婚や異性との交際の問題に関わりを持たない留学生ばかりではないことも考慮すべきであろう。

このデータに対しても、回答の1と2、および3と4をまとめ、それぞれ“影響なし”と“影響あり”としてカイ2乗検定をおこなったが、結果は有意ではなかった($\chi^2=1.44$, $df=2$, n.s.)。

【日本語能力と職業選択】

留学の目的として日本語の習得を挙げている回答者が102名中44名いた。また上述のように、留学によって職業選択に影響があるとする留学生も多いことから、日本語の習得の程度も、ある程度は職業選択に影響すると考えることができる。そこで、問18に示された日本語の順位と、問25の“職業選択”との関連を検討した。問18には必ず母語と日本語を交えた上で、6言語まで回答することができるようになっている。し

たがって、得意な言語ほど、より上位に来ると考えられる。この質問について、日本語を1位に挙げた回答者はいなかったため、日本語を母語以外では最も得意とした者、つまり日本語を2位に挙げた者と、4位以下の下位順位にランクした者に分け、職業選択への影響を調べた (Figure 5)。日本語を2位に挙げたのは53名、4位以下に挙げたのは11名であった。ただし、4位以下に挙げているということは、同時にそれだけ多くの言語を操ることができることを意味している。

回答の1と2、および3と4をまとめ、それぞれ“影響なし”と“影響あり”としてカイ2乗検定をおこなったが、有意ではなかった ($\chi^2 = 0.11, df = 1, n.s.$)。

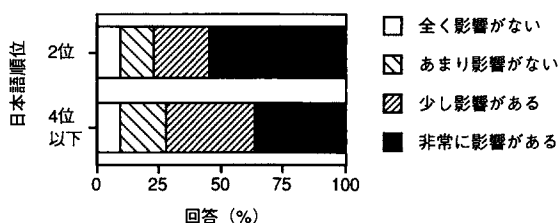


Fig. 5 日本語の順位と職業選択への影響の関連の程度。
ここに示したデータからは無回答は削除してある。

【留学時の年齢とカルチャー・ショック】

初めて留学してきたときの年齢を30歳前と30歳以降を境に2つの年齢群に分け、カルチャー・ショックの有無を検討した。

この質問に対して無回答だった回答者が13名いたので、総回答数は89名であった。このうち、帰国後にカルチャー・ショックを感じたと回答したのは38名であった。これらの回答者の年齢群別の内訳は、30歳前グループで24名、31歳以降グループで14名となった。一方、感じなかったとした回答者は51名で、30歳前グループで29名、31歳以降グループで22名となった (Figure 6)。カイ2乗検定は、有意にならなかった ($\chi^2 = 0.36, df = 1, n.s.$)。

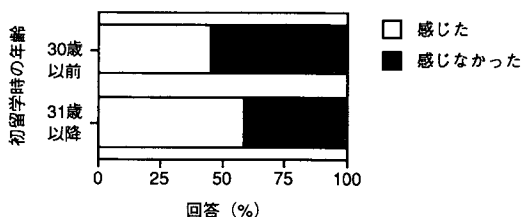


Fig. 6 初めて留学したときの年齢と帰国後のカルチャー・ショックの有無の関連。
ここに示したデータからは無回答は削除してある。

しかし、この項目については、カルチャー・ショックを感じたと回答した者がその内容として挙げたものがより興味深い。カルチャー・ショックとして挙げられた内容としては、ことばや食習慣、生活習慣などのふだんの生活態度に関する問題、他者に対する接し方や礼儀などのコミュニケーション上の問題が主であったが、日本人の習慣や思考が身についていて、そのせいで帰国後に困難を感じたとする意見もあった。この中には日本人は勤勉である（帰国後にそれを感じた）という意見がある一方で、日本人の優柔不断さが身についてしまって苦勞したという意見もあった。

IV. 考察および今後の課題

【日本での留學生活の全体的評価】

留學の全体的な評価を尋ねた「留學したことはよかったですか」（問25・4件法）には「あまりよくなかった」および無回答の計2名を除く全員が、極めて高い評価をしていた。こうしたプラスの評価があるからこそ、「自分の兄弟や子供も日本に留學させたいと思いますか」（問28）についても、9割前後の高い割合で肯定していることが理解されよう。日本留學の諸側面についての意見は多々あると思われるものの、全体的に見てよかったですとする回答に、留學生関係の仕事に従事する者にとっては満足すべき評価であると思われる。もっとも、このような調査に協力する事自体が、既に好意的な評価をする回答者に限られてしまう可能性も否めない。留學経験が極めて不愉快で、記憶の中から消し去りたい留學生が回答してくるとは考えにくいからである。このことを踏まえて、留學の全体的な評価については、今後とも慎重に捉えて行くことが必要である。

また、大学や地域での満足な点やよかったです点（問21・30）には、

「親切な人が多く落ち着いて勉強することができる」

「教師、友人、皆さんからの励まし、暖かい友情など、現在でも続いている」という記述に代表されるように、身近な周囲の人々との関係をあげている。その中でも特に、「日本人の友人」、「先生や職員」との人間関係が帰国後も維持されていることがわかる（問24）。

留學中の困ったり、苦勞したこと（問20）は、「ホームシック」は当然としても、「金沢の風土と気象」についての回答は日本人学生と同様である。特に、暖かい地域からの留學生には従来通り、地域の特性を強調したオリエンテーションが必要である。

【留学経験の影響】

「専門的な知識や技術」については9割に近い回答者が、また「日本語」については8割を超える回答者が、現在の仕事や生活に役立っているとしている（問19）。在日期間の長さは職業選択と強く関連しており、その多くが大学院での学位取得後帰国して、医師・教職・研究職などの専門職に従事していること（問5・9）は、いわば当然予想された結果である。

留学経験が与えた影響の中で最大であったのは「日本人イメージ」に関してであった（問25）。その内容がどのようなものであるかについて本調査では推定のみで留まるが、岩男・荻原（1988）の先行研究によれば、「帰国留学生は在日時に比べると対日イメージもはるかに良好なものになっていることが確かめられた。（中略）ただし、ここでは日本社会の閉鎖性や日本人は偏見があるというイメージは、帰国後も弱まることなく残っている点にも十分な注意を払う必要があるように思われる。」（pp95）と指摘されている。本調査でも、影響のあった日本人イメージの内容と影響の側面について、今後とも継続して明らかにする必要があるだろう。それと平行して、1年以内の短期の留学生に日本人イメージの変容が起こりやすいとする結果を踏まえるならば、偏りの少ない日本人イメージの形成はどのようにしたら可能であるか、さらに進めて、相互理解や相互交流を促進する好意的なイメージの形成は出来るのかなどについて、今後一層検討することが求められる。

【帰国後のカルチャー・ショック】

日本に長期滞在すればするほど、行動の仕方などの表面に顕れた部分だけでなく日本的なものの考え方、捉え方、価値観などを身に付けて行くことは広く知られた事実である。しかも、価値観に関しては30才未満の比較的若い層の変化が大きいことが明らかにされている（大橋、1994）。本調査においても、同様な傾向が認められ（問29）、日本の価値基準を内面化したため、帰国してから「△△△人は、皆、無礼な人のように見えてしまって、困ったことが多かったです」あるいは、「真面目すぎて、回りの人と合わない」などの回答を寄せてきた帰国生もいた。

帰国後に予想されるカルチャー・ショックについては、帰国前のオリエンテーションや既に帰国した同窓生との連絡網を活用するなどの対策が考えられる。

【大学や地域への要望】

留学に必要な情報として当然のことながら、「大学」と「自分の研究分野」があがっている（問27）。インターネット等の利用により諸情報の入手が可能になった現在、大

学や研究領域を掲載したホームページの一層の充実が望まれるところである。またこれと平行して、留学フェアなどを通じて留学生の出身国での留学相談はもちろん、留学に対するニーズをも明らかにする必要がある。

大学における改善点（問26、自由記述）では、記入そのものが少なかったが、大学における教育システム（「もっと指導してほしい」、「大学院では授業をしないことが理解できない」等）や日本人学生・留学生どうしの交流を希望する意見があった。特に大学における教育システムについては今後の大きな課題である。

【参考文献】

- ・岩男寿美子・萩原滋 1988 日本で学ぶ留学生 勁草書房
- ・大橋敏子 1994 外国人留学生の帰国適応問題 異文化間教育8 アカデミア出版会
- ・東京外国語大学留学生日本語教育センター 1995 国費学部留学生に関する調査報告

A Survey of Former International Students in Japan

ABSTRACT The main purpose of this study was to investigate the value of studying in Japanese university for international students. Subjects were 102 former international students of Kanazawa University. The questionnaire consisted of 30 items including student profile, student life in Japan, effect of study experience on private life, evaluation, reentering culture shock and requirements was used in this survey.

Through the statistical analysis of the questionnaire, we had several findings as follows.

- 1) Former international students especially in the older days, about 10 years ago or more, gave a very high mark in evaluation on their campus life in Japan.
- 2) The experience of studying in Japan strongly effected on the job selection and the image of Japanese.
- 3) Young generation under 30 years old tended to feel the reentering culture shock after they returned to own country.
- 4) The essential information to decide studying in Japan was the profile of universities and research field. Information source such as a homepage on the web site should be enhanced.

にほんりゅうがくけいけんしゃ ちょうさ
日本留学経験者の調査 (1998)

A Survey of Former International Students in Japan

質問は日本語及び英語で書かれていますので、回答は日本語で書かれても、英語で書かれても
 けっこうですが、すべての質問にお答えください。

この調査は、今後の留学生の教育に役立てたいので宜しくお願いいたします。

All items are written in both Japanese and English. Feel free to respond in whichever language is easier for you.
 Please try to answer all the items.

Your answer will play an important part in improving education for International students.

- 1 性別 (Sex) 男 (Male) 女 (Female)
- 2 年齢 (Age) () 歳 (Years old) 生年月日 (Date of birth) () 年 (Year) () 月 (Month) () 日 (Day)
- 3 国籍 (Nationality) ()
- 4 母語 (Native Language) ()
- 5 職業 (Occupation or Job) ()
- 6 未婚・既婚 (Single・Married) → ① 同国人 (The same nationality) ② 日本人 (Japanese) ③ その他 (Other)
- 7 金沢に留学中あなたは結婚していましたか。 (Were you married while you were in Kanazawa?) はい (Yes) いいえ (No)
 もし結婚していたなら、その人と一緒に金沢で生活していましたか。 (If yes, was your spouse staying with you in Kanazawa?) はい (Yes) いいえ (No)
- 8 留学生として最初に金沢に来たのはいつですか。 (When did you first come to Kanazawa as an international student?) () 年 (Year) () 月 (Month)
 何歳でしたか。 (How old were you at that time?) () 歳 (Years old)
- 9 日本ではどの大学・学校に所属しましたか。2つ以上あるときは順番に書いてください。 (Which school or schools have you attended in Japan? (If you have attended more than one school, please fill in the columns below).)

大学・学校名 Name of school	所属コース Type of course あてはまるものに○ Circle an appropriate item	在学期間 Period attended Year Month	(専 門) (Field of study) 受けた学位 Degree
①	学部生・大学院生 Undergraduate・Graduate 日 研 生・教員研修留学生 Japanese studies student・ Teacher training student 短期・集中コース Short-term student・ Intensive Japanese language course student	19()年()月～ 19()年()月 卒 業・修 了 Graduation・Completion 中 退 Without completion	() がくし しゅうし はくし 学 士・修 士・博 士 Bachelor・Master・Doctor
②	学部生・大学院生 Undergraduate・Graduate 日 研 生・教員研修留学生 Japanese studies student・ Teacher training student 短期・集中コース Short-term student・ Intensive Japanese language course student	19()年()月～ 19()年()月 卒 業・修 了 Graduation・Completion 中 退 Without completion	() がくし しゅうし はくし 学 士・修 士・博 士 Bachelor・Master・Doctor

③	学部生・大学院生 Undergraduate・Graduate	19()年()月～ 19()年()月	()
	日研生・教員研修留学生 Japanese studies student Teacher training student	卒業・修了 Graduation・Completion	がくし しゅうし はくし 学士・修士・博士 Bachelor・Master・Doctor
	短期・集中コース Short-term student・ Intensive Japanese language course student	中退 Without completion	

在日期間は合計して ()年()ヶ月
In total, how long did you stay in Japan as an international student? Years Months

- 10 留学中、どこから奨学金をもらいましたか。
(If received) where did you get your scholarship from?
- ① 日本の文部省 Monbusho scholarship ② 自国の政府 Your government ③ 日本の公共団体 A Japanese public organization
④ 民間 Private organization ⑤ その他 () Other ⑥ 一度ももらわなかった did not receive
- 11 あなたが日本での学生生活を終えたのはいつのことですか。何歳の時でしたか。
When did you finish your studies in Japan? How old were you at that time?
()年()月 ()歳
Year Month Years old
- 12 日本での学生生活を終えたあと、あなたは日本で職を探そうとしましたか。
On completion of your studies in Japan, did you try to seek employment in Japan?
- はい いいえ
Yes No
- 13 職は見つかりましたか。はい いいえ
If yes, did you find employment? Yes No
- 14 どんな仕事でしたか。()
If so, what was your job?
- 15 あなたはいつ日本を離れましたか。()年()月
When did you leave Japan? Year Month
- 16 日本を離れたあと、すぐ本国に帰りましたか。はい いいえ
Did you return home immediately after leaving Japan? Yes No
- 17 すぐ帰国したのでないなら、離日後どうしましたか。()
If not, what did you do after you left Japan?
- 18 使用可能言語を得意な順に書いてください(「母語」と「日本語」を必ず入れてください)。
How many languages can you speak? Write them down in the order of proficiency.
Include your native language and Japanese.
- ① () ② () ③ ()
④ () ⑤ () ⑥ ()
- 19 留学時代に学んだことが現在の仕事や生活に役立っていますか。(数字に○)
Have the skills gained during your study in Japan been useful in your current life?

	大変役立っている Very useful	まあまあ役立っている Somewhat useful	あまり役立っていない Not so useful	全く役立っていない Completely useless
① 専門的な知識や技術 professional or technical knowledge	4	3	2	1
② 日本語 Japanese language ability	4	3	2	1

20 金沢にいた間、あなたが困ったり、苦労したのは次のどのようなことでしたか。

あてはまる数字にいくつでも○をつけてください。

What kind of problems did you have while living in Kanazawa? Circle all appropriate items.

- | | | |
|---|--|---|
| ① 経済的困難
financial problems | ② ホームシック
Homesickness | ③ 日本語
Japanese language |
| ④ 教職員との人間関係
Personal relations with the academic staff | ⑤ 健康
Health problems | ⑥ 食生活の違い
Differences in eating habits |
| ⑦ 進学問題
Proceeding to a higher level of education | ⑧ 専門科目の勉強
Studies in my major | ⑨ 日本人との交流
Personal relationships with the Japanese |
| ⑩ 習慣の違い
Differences in customs | ⑪ 余暇の過ごし方
Finding ways to use free time | ⑫ 金沢の風土と気象
The climate |
| ⑬ 住居問題
Accommodations | ⑭ その他 ()
Others | |

21 金沢に暮らしてよかったことはどのようなことでしたか。

What kind of merits did you find about living in Kanazawa?

- | | |
|--|--|
| ① 都市としての大きさがちょうどよい
The city was of ideal size | ② 自然が多い
The surrounding natural environment |
| ③ 文化施設が多い
Plenty of cultural institutions | ④ 物価が安い
Low cost of living |
| ⑤ 親切な人が多い
Helpful people | |
| ⑥ その他 (具体的に)
Others Specify. | () |

22 あなたの留学について、目的は何だったのですか。(あてはまるものいくつでも○)

What was the purpose of your study abroad? Circle all appropriate items.

- | | | |
|---|---------------------------------|--|
| ① 学位をとるため
To get a degree | ② 日本語を学ぶため
To learn Japanese | ③ 日本文化を知るため
To learn about the Japanese culture |
| ④ 日本語以外の技術を身につけるため
To obtain technical knowledge in a field other than Japanese language | | |
| ⑤ その他の理由 (具体的に)
Other Specify. | | () |

23 留学したことはよかったと思いますか。

Did you find studying abroad a valuable experience?

- | | | | |
|-----------------------|------------------------------|----------------------------|--|
| ① 大変よかった
Very much | ② まあまあよかった
To some degree | ③ あまりよくなかった
Not so much | ④ 全くよくなかった
Completely disappointing |
|-----------------------|------------------------------|----------------------------|--|

理由を書いてください ()
Write down the reason.

24 現在あなたはどのくらい留学当時の人間関係を続けていますか。

To what degree have you kept in contact with friends made while in Japan

	現在もよく 維持している frequently	まあまあ 維持している sometimes	ほとんど 維持してない rarely	留学中に 交流はなかった Did not make friends while staying in Japan
① 同国の友人 Friends from your country	4	3	2	1
② 留学生の友人 International students	4	3	2	1
③ 日本人の友人 Japanese friends	4	3	2	1
④ 先生や職員 Teachers or other staff members	4	3	2	1
⑤ ホームステイ・ファミリー Homestay family members	4	3	2	1
⑥ ボランティアなどの日本人 Japanese (such as volunteers)	4	3	2	1

25 日本に留学したことが自分の人生にどのように影響を与えたと思いますか。
In what ways do you think studying abroad in Japan influenced your life?

次の各項目について一番近い答に○をつけてください。
Circle an appropriate figure for each item

	非常に 影響がある Very influential	少し 影響がある Somewhat influential	あまり 影響がない Not so influential	全く 影響がない NO influential
① 職業選択 In selecting a job	4	3	2	1
② 社会的地位 Your social status	4	3	2	1
③ 結婚 Marriage	4	3	2	1
④ 生活様式 Lifestyle	4	3	2	1
⑤ 人生設計 Life planning	4	3	2	1
⑥ 育児 Child-rearing	4	3	2	1
⑦ 人的ネットワーク Establishing contacts with useful people	4	3	2	1
⑧ 経済力(資産) Finances	4	3	2	1
⑨ 国際政治への関心 Interest in international politics	4	3	2	1
⑩ 食生活 Eating habits	4	3	2	1
⑪ 日本人イメージ Image of the Japanese	4	3	2	1
⑫ 労働観 Feelings towards employment	4	3	2	1

26 金沢に留学中、大学に関する事で改善したほうがよいと思ったことがありますか。(具体的に)
During your study abroad in Japan, did you feel that changes were necessary at the university?
If so, in what area? Specify.

- ① 入学手続きについて ()
Admission procedures
- ② 教育の面で ()
Education
- ③ 支援体制の面で ()
Institutions supporting international students
- ④ その他 ()
Other

27 留学に関してどんな情報が必要だと思えますか。(あてはまるものいくつかでも○)
What kind of information do you think is necessary for studying abroad? Circle all appropriate items.

- ① 大学 About the university
- ② 県や市 About the prefecture and city
- ③ 自分の研究分野 About your major field of study
- ④ 日本留学 About studying in Japan
- ⑤ その他 ()
Other

28 自分の兄弟や子供も日本に留学させたいと思えますか。はい いいえ
Would you like to send your brothers or sisters or children to Japan for study abroad? Yes No

29 留学を終えて帰国したときカルチャー・ショックを感じましたか。はい いいえ
(はいと答えた人に) それはどのようなものでしたか。(具体的に)
Did you feel reverse culture shock after returning to your home country? Yes No
If you answered Yes, in what way? Specify.

30 金沢での大学生活で満足した点はどんなことですか。
What things were most satisfying about your life in Kanazawa?

ご協力ありがとうございました。
Thank you for your cooperation.